

WITH

ARISAWA の今を伝える情報誌

arisawa communication magazine

VOL. 14
2016 DECEMBER



WITH

VOL. 14

発行日 2016年12月1日

発行 有澤建設株式会社 広報委員会

福岡市博多区博多駅南3-3-12



ARISAWA の自慢



バランスのとれた管理

工務部 所長
和田 将人

現場監督の仕事として安全管理、品質管理、工程管理、原価管理と分かれ、バランスのとれた管理が大事になります。

建物ができるまでの間、建物の多くはシートやパネルで覆われています。中ではどのような作業が行われ、どのような過程で建物ができているかわからないまま、気づくと完成してしまっていると思われる事があります。しかし、その過程の中、私たちは事故の無いように安全管理を行い、お客様に品質の良い建物を提供する為に品質管理を行っています。

安全設備を整えたからといって事故が起きないとは言えません。限りなく可能性をゼロにする努力が大事で、それには日々の巡回による点検、周りへの指導、声掛けによる意識付けが必要になります。

また、品質は私たちが目で見て確認し、図面通り、指示通りできているか管理し、出来ていなければやり直しをします。私たちは仕事の計画、施工、確認を繰り返すことで管理し、より良い建物を工期内に作り上げていっています。

また、原価を把握しておく事は、色んな要求に対しても対応がスムーズにでき、こだわりを持って妥協せず建物より良くしていく事が出来ます。

現在、若手を指導している立場ですが、これらをしっかりとして理解させ、習得させていく事が、使命ではないかと思ひ、日々考えて行動しているところです。

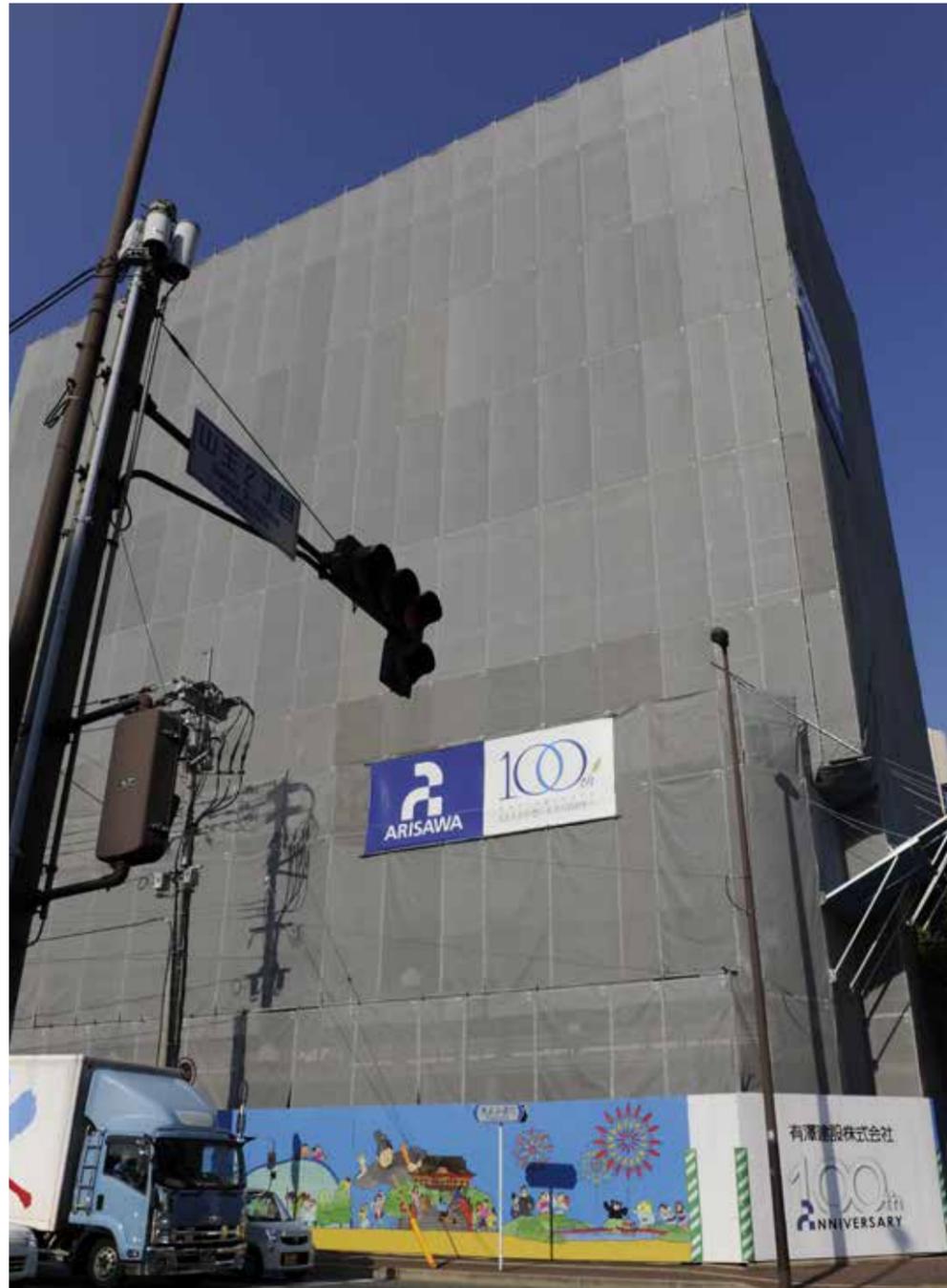
これまでも、 これからも有澤建設。

有澤建設も100年目を迎え、新しい幹部も決まりました。改めてこういった節目に来たことを考えると、お客様や社員、支えてくれた方々を思い感謝が溢れてきます。100年の会社となるお客様からのご期待も100年の会社としての安心感を期待されます。また、100年の伝統を守っていくという考え方もできます。そういった期待感に迎えようとして、結局何も挑戦せず以前と同じことをすることでも危機感を感じます。時代は激変しております。置の生活から、今では椅子がない生活は考えられませんが、時代により人の生活様式も変化しました。また、建設資材も大きく変化し便利なものが次々出てきております。そんな中変化を拒み、変わらないことを選ぶことは、すぐに時代遅れになり衰退するということです。我々は常に時代の動き、変化を敏感に見てそれに合わせて変化していく行動力がさらに必要になってくるのです。しかし、変わってはいけないものもあります。お客様に感動してもらおうことです。「有澤建設さんに頼んだら、しゃれるもん創ってくれそうやもんね」と先日頂きました言葉は本当に嬉しかったです。期待以上のものを創ってくれると、お客様が期待してくれる会社であり続けるためには、お客様の感動を追及していくことは変わらず挑戦していきます。本質的なものは変わらずも、新しく変化を重ね取り入れていく「不易流行」を念頭に置いた次の100年にしていきます。

不易流行

有澤建設株式会社 代表取締役会長

有澤 廣己



新社屋 2017年3月完成予定

皆様とともに、感動。

9月で100年目となり、皆様のおかげで盛大な祝賀会を開催することができました。多くの方々にお越し頂き、充分ではございませんが100年に至ることができたお礼が少しできたのではないかと思っております。今回の祝賀会ではたくさんの社員が頑張ってくれました。全てが初めてのこと、不慣れなこともありましたが、その中で開催できたことの達成感と共に、多くの方に支えられてきたことを改めて実感することができ、社員共々感動で心が震えましたし、より良いものをお客様に提供していきたいと改めて強く思いました。会長の不易流行の文章の中にもございましたが、お客様に感動して頂くことを追及し挑戦していく志は、決して変わってはいかないものです。そして、感動を作り出すためには関わる全ての社員に「気づく力」が不可欠だと思います。お客様からご要望を頂いたものをカタチにするのは当たり前のことです。お客様も気づかれない、言葉となっていないご要望をスタッフが気づき提案することができれば、そこにお客様の感動が必ず生まれると確信しております。その気づく力を身につけるには、些細な事でも気づき感動できる人材になることが大事です。そんな社員と共に100年先を見据えて更に努力してまいります。

有澤建設株式会社 代表取締役社長

木下 英資

気づく力

創業100周年記念祝賀会

平成28年9月1日、弊社は100周年となる期が始まりました。
それを記念しまして、創業100周年記念祝賀会を行いました。
ご招待したお客様は、お施主様・金融機関様・取引先関係者様をはじめ310名。
大変華やかな会となりました。
ご列席いただいた皆様、ありがとうございました。



人と人との想いを
次の100年へ



工務部 次長
津原 弘樹

当たり前前のごことを
当たり前前に全力で



企画営業部 次長
藤木 将志

平成28年9月1日より、弊社は創業100周年を迎えると同時に、取締役営業部長に就任させて頂きました。

木下社長より、9月1日より、取締役営業部長という内示を頂いた時は、正直、取締役という役職の重さは分かりませんでした。ただ、9月1日の100周年パーティー以降の周りの方々からのお祝いの言葉、激励の言葉などの反響を受け、役職の重責を肌で感じ、今では責任の重さを痛感しております。

その中で、自分に何ができるのかと考えた時に私が普段の業務で、心掛けていること。「当たり前前のごことを当たり前前に全力で行うこと」という考え方を社内で共有できればと思います。自分の身の丈以上のことをするのは難しいと思いません。自分ができることを基本に忠実に全力で行えばよいと思っています。例えば、周りの方々への心遣い、言葉使い、自分自身のマナー、業務への取組、社内報告など基本的なことですね。これらが雑になると周りの方々からの信用は得られないと思います。ただ、人は経験を重ねていくと雑になりやすい分野でもあります。まず、自分自身が行動で示していき、この考えを社内にも浸透していきたいと思っています。

これから有澤建設が地域一番の会社になるように、何で地域一番を目指すのか難しいところではありますが、売上とかではなく、理想は社員の家族が有澤建設に家族が勤めていると言った時にすごいねと言われる知名度がある会社にしていくことです。その為にこの100年の伝統を守るだけでなく、新しいことにチャレンジしていきたいと考えております。

有澤建設100周年記念という大きな節目の年に取締役に就任したことに、対し重く受け止め、又身の引き締まる思いです。

私は社会人として22年、有澤建設に入社してから15年目となりますが、それまでは『会社の為に』という考えは全くありませんでした。

しかし今は今後の有澤建設株式会社をつくるのは我々の責務だと強く感じています。

システム、マニュアル、技術だけでは会社は決して成り立ちません、我々の仕事はものづくりです。そこに思い・こだわりがないとよいものをつくることはできないし、お客様に満足・感動を与えることはできません。

私の今後の課題の1つは、今まで学んできたすべての技術、思いを継承することで、次の世代を育てることです。

もう一つの課題は先代から現社長まで受け継いできた方針、思いを自分なりに理解し、次の世代に伝えることです。

スローガンである「人と人との想いを次の100年へ」この言葉を常に意識し、自分自身、有澤建設を高めることに努め、200年を目指すさらなる礎を築きたいと思えます。

ARISAWA 女子会

多くの男性が働く建設業の中で、ひるむことなく華麗に業務に立ち向かい
誠実性、正確性、想像力、感謝力で ARISAWA のパワーを統合している女子会。
100 年目の有澤建設で、これからの抱負を聞いてみました。

総務部 中里 綾花

総務部の中里です。
私は日々ひとつひとつの
業務を確実に
遂行することを
心がけて努めています。
必要とされることに
レスポンスするだけでなく
+αの行動が
出来た場合の達成感は一入（ひとしお）です。

総務部 小川 千智

労災保険の手続きや
業者様への工事注文書の
発行を担当しています。
入社1年目なので
社員の皆さんから
「小川さんに頼めば
大丈夫」と信頼して
仕事を任せて
もらえるようになる事が
今の目標です。

工務部 設計 石橋 可奈子

設計担当の石橋です。
最近「女性の立場からみて
どう思う?」と
意見を求めて頂く機会も増えました。
女性ならではの観点で
提案の幅を広げ、
よりお客様が満足して頂ける
家づくりにつなげていきたいです。

企画営業部 営業アシスタント 小山 未緒

今年の春から
総務部から営業部へと移動しました。
今年は100周年の
祝賀会準備も含め、
新しいことに挑戦する年で、
そこから本当に多くのことを
学ぶことができました。
これからも「日々新た」に
挑戦し続ける人生にします。

総務部 兵頭 緒香

総務経理部で
主に経理を担当しています。
業務の広がりとともに
学びたいことが増えてきました。
日々の仕事をていねいに、
そして1年・3年・5年と
未来の成長を描きながら
目標を定めて取り組んでいきます。

創業100周年祝賀会
裏話レポート

先日、弊社では100周年祝賀会が行われましたが、ここではその舞台裏をレポートします。

2016年、年明けから社長を中心に本格的に準備をスタートさせました。

といっても何から始めていいかわからない私達はホテルオークラ様の助けのもと、手探り状態で始動したのです。お土産・映像・余興・席次・パネル作成・ワイン決め…。決めるべき事がたくさんありました。

大詰めに入った8月はさらに大忙し。料理の試食に行けたのは役得でした！映像は何度も何度も修正を加え、これは入れた方がいい、これははいらない、音楽も「ちょっとイメージが合わないな」「いや、最初の方が良かったかも…。最終的な映像が完成したのが前日という慌ただしさ。

そして一番苦労したのが席次決めです。今回、様々なお施主様・金融機関様・取引関係者様をお呼びしていましたので、席次決めは相当悩みました。ある程度決まったと思った翌日にはほとんど変わっていたことも何度かありました。結局席次表の印刷が終わったのが当日のお昼！直前まで気が抜けませんでした。

当日は流れた映像を観ながら、準備に邁進してきた日々を思い、ウルっとくるものがありました。後で聞いたところ、社長や藤木部長もそうだったようです。こうして無事終了した祝賀会は大成功を収めることができました。

ホテルオークラ様を始め、ご協力いただいた各関係者様、ありがとうございました。



企画営業部 営業アシスタント
小山 未緒

(ダミー)入社5年目
好きな食べ物: ラーメン
趣味: 仕事のあとのビール
4年前に禁煙に成功したせいか、
体重の増加が気になる今日このごろ…
最近はサウナによく行きます。



工務部 主任
山崎 健太

入社5年目
好きな食べ物: ラーメン
趣味: 仕事のあとのビール
4年前に禁煙に成功したせいか、
体重の増加が気になる今日このごろ…
最近はサウナによく行きます。

戸建住宅から大規模プロジェクトまで様々なリクエストをカタチにしていく上で、私たちの基本的な姿勢は変わりません。それは提案する物づくりであること。常にプラアルファアの価値、潜在する可能性を模索し追求することを心がけています。そのためには豊富な専門知識、確かな技術と施工力、最先端の工法を駆使することが当然求められます。私たち工務部の社員は月に一度、全員で集まり正確な情報を共有し協議することで、

に本当に幸せな笑顔が溢れることで、はじめて私たちは満足感と充実感に包まれ、心から喜びと誇りをかみしめることができるのです。そこが私たち建築のプロの存在意義。本社屋の建替え工事においても同様で、私たちは次の100年も胸を張って、提案する物づくりにこだわり続けていくつもりです。

本社屋は鉄筋コンクリート造の13階建てで1階を本社事務所、2・3階が駐車場、4〜13階が賃貸戸といった博多駅地区においては高層規模にあたる全社を挙げての一大プロジェクトです。11月で着工からちょうど一年が経過した本社屋の建替え工事ですが、来年4月の竣工に向けて現在は11階の躯体工事を行っており、内部では4階からの賃貸部分における内装工事を同時に進捗しております。



落ち葉が風に舞う季節が近づき、筑紫通りの銀杏並木も美しい黄色に染まり始めました。私は本社建替え工事の施工担当をしています山崎です。 各々の技術力を高めているのです。すべての建物は人々の暮らしを支えたり彩ったりするものです。より便利で快適で豊かな社会の実現のために私たち建築のプロは大きな使命と責任を負っています。信頼に応えるのは最低限のこと。住む人、使う人

「有澤建設 本社屋のいま」

